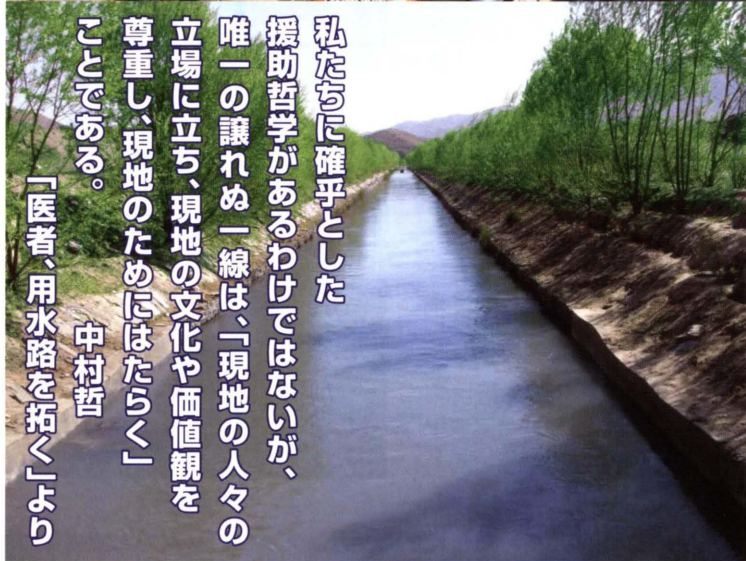
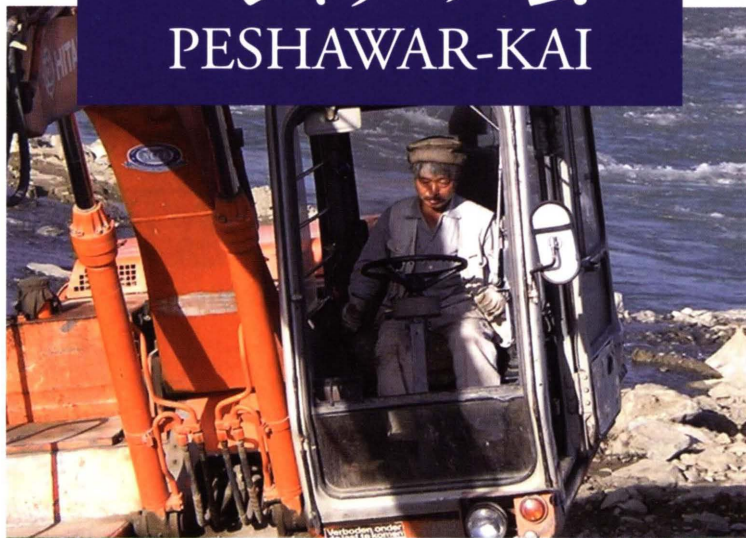


# ペシャワール会 PESHAWAR-KAI



私たちに確乎とした

援助哲学があるわけではないが、

唯一の譲れぬ一線は、「現地の人々の

立場に立ち、現地の文化や価値観を

尊重し、現地のためにはたらく」

ことである。

中村哲

「医者、用水路を拓く」より

## ペシャワール会事務局

〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル603号

電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373

e メール peshawar@kkh.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

郵便物送付先 〒810-0001福岡市中央区天神3-4-7 福岡YMCA気付

郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会

【会長】後藤 哲也

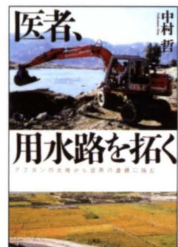
【現地代表】中村 哲

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在はパキスタンとアフガニスタンで、医療活動・水源確保活動・農業支援活動を行っています。



## ◎ 書籍紹介 ◎

### 中村哲著及び編集



#### 『医者、用水路を拓く』

～アフガンの大地から世界の虚構に挑む～  
中村哲著  
白衣を脱ぎ、メスを重機のレバーに代え  
大地の医者となる  
「百の診療所より一本の用水路を！」  
(石風社 2007年刊)

『ペシャワールにて』(石風社 1989年刊)

『ダラエ・ヌールへの道』(石風社 1992年刊)

『アフガニスタンの診療所から』(筑摩書房 1993年刊)

『医は国境を越えて』(石風社 1999年刊)

『医者井戸を掘る アフガン早魃との闘い』(石風社 2001年刊)

『ほんとうのアフガニスタン』(光文社 2002年刊)

『辺境で診る辺境から見る』(石風社 2003年刊)

『医者よ信念はいらぬ命を救え』(羊土社 2003年刊)

『中村 哲さん講演録 「平和の井戸を掘る」

アフガニスタンからの報告』(編集・発行:ピースウォーク京都)

『アフガニスタンの診療所から』(筑摩文庫 2005年刊)

『空爆と「復興」』—アフガン最前線報告(石風社 2004年刊)

『丸腰のボランティア』中村哲編・日本人ワーカー著(石風社2006年刊)

『アフガニスタンの大地とともに～伊藤和也遺稿・追悼集』

ペシャワール会編(石風社2009年刊)

### 福元満治著

『伏流の思考 私のアフガン・ノート』(石風社 2004年刊)

### 丸山直樹著

『ドクター・サーブ 中村 哲の15年』(石風社 2000年刊)

『アフガン乾いた大地 戦火の中の民』(NHK出版 2001年刊)

◆ご購入については、書店又は各出版社に直接お問い合わせください◆

### ◆事務局から◆

事務局は福岡にあります。約30人のボランティアと1人の専従が活動しています。寄付された方へのお礼状書き、会報の発送、広報活動、等を行っています。お手伝いできる方は、ぜひ事務局へご連絡下さい。作業は月曜、水曜、金曜の午後に行なっています。(水曜は夜も作業していません。)

## 心が動いたら会員に

### ペシャワール会入会案内

#### 現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員や支援者の会費・寄付金によって運営されているNGOです。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などを問わずどなたでも入会できます。

\*会員・支援者の方には、現地活動等の報告記事を載せた会報を年4回お送りしております。



### 年会費

学生会員	1,000円より
一般会員	3,000円より
維持会員	10,000円より
団体会員	30,000円より

(会計年度は4月1日～翌年3月31日)

\*会費以外の寄付も随時受け付けております

### 会費・寄付などの納入方法

郵便払込口座 01790-7-6559

加入者名 ペシャワール会

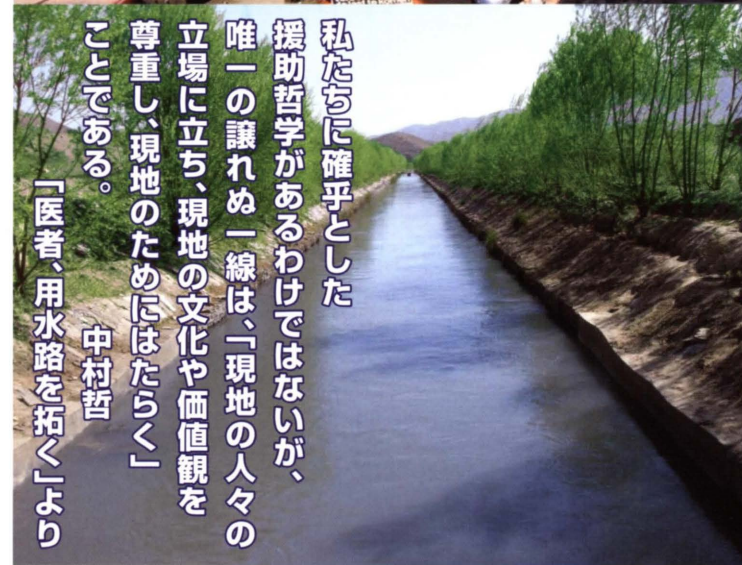
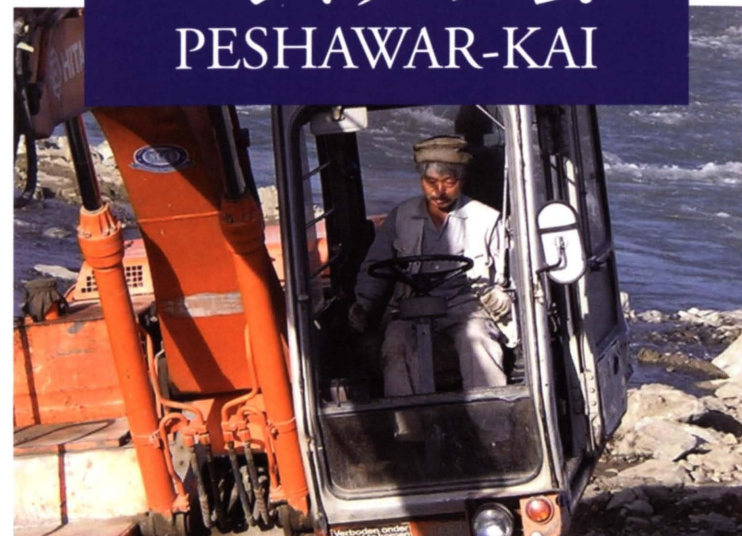
お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出しください。

※ご入会の際は通信欄に「入会」と明記して下さい。

会報の発送に年間数百万円以上かかっています。未使用切手・書き損じのハガキ等をお送りいただければ幸いです。

(\*古切手は扱っておりません)

## ペシャワール会 PESHAWAR-KAI



私たちに確乎とした  
援助哲学があるわけではないが、  
唯一の譲れぬ一線は、「現地の人々の  
立場に立ち、現地の文化や価値観を  
尊重し、現地のためにはたらく」  
ことである。  
中村哲

「医者、用水路を拓く」より

### ペシャワール会事務局

〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル603号

電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373

eメール peshawar@kkh.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

郵便物送付先 〒810-0001福岡市中央区天神3-4-7 福岡YMCA気付

郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会

【会長】後藤 哲也

【現地代表】中村 哲

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在はパキスタンとアフガニスタンで、医療活動・水源確保活動・農業支援活動を行っています。



# ペシャワール会のあゆみ

《誰もが押し寄せる所なら誰かが行く。  
誰も行かない所でこそ、我々は必要とされる。》(中村哲)

1984年、中村医師はパキスタンのペシャワール・ミッション病院ハンセン病棟に赴任し、医療器具や手術設備が不十分な環境の下で、10年間診療活動を続けました。

1986年よりパキスタン国内のアフガン難民への診療を本格的に開始し、更に、アフガニスタン国内にも活動範囲を広げ、1991年12月、その拠点としてダラエ・ヌールに最初の診療所を開設しました。以来、アフガニスタン北東部の3診療所を中心に、山岳無医村での医療活動を始めました。

1993年、ダラエ・ヌール周辺で悪性マラリアが大流行し、治療薬の資金を確保するため、大々的な募金活動を展開しました。全国から2000万円以上の寄付が寄せられ、2万人もの患者の命が救われました。

1998年には恒久的な基地病院としてPMS(ペシャワール会医療サービス)病院をペシャワールに建設しました。

2000年、大干ばつに見舞われたアフガニスタンの村々で水源確保事業を開始し、飲料用井戸約1600本と直径約5mの灌漑用井戸13本を掘削、カレーズ(伝統的な地下水路)38ヶ所の修復をしました。

2001年10月には「アフガンのいのちの基金」を設立し、空爆下、アフガニスタン国内避難民への緊急食糧配給を実施し、2002年2月までに15万人に配給しました。現在は、その基金をもとに、アフガニスタン東部で灌漑水路建設(全長24.3km)を含む総合的農村復興事業「緑の大地計画」を進めています。



PMS基地病院



ソルフロッド郡での食糧配給

## 医療事業

ペシャワールのPMS病院を中心に、パキスタン山岳部ラシュトに1カ所、アフガニスタン東部山岳部ダラエ・ヌールに1カ所の診療所を設け活動しています。ハンセン病を柱とする医療活動を続けながら、アフガン難民をはじめ貧困層の診療を行っています。事業は診療にとどまらず、現地職員の医療教育も行っています。

女性患者が医師(男性)にさえ肌を見せないイスラム的風習の中で、ハンセン病女性患者の早期発見とケアの為、日本人女性ワーカーも働いています。

- 総診療数:約73,000人(2008年度)
- 医療事業職員:約50人(2009年9月現在)



ダラエ・ヌール診療所



ダラエ・ヌール診療所外観

## 緑の大地計画

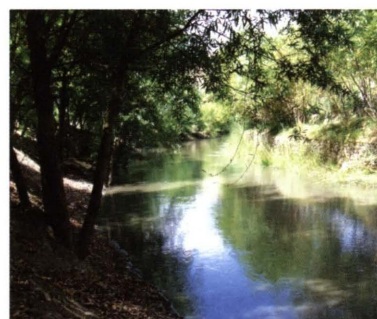
2000年、大干ばつによる水不足が原因で、アフガニスタン国内の診療所では赤痢患者が急増していました。

そこで、同年7月より、医療活動の一環としてアフガニスタン東部一帯で水源確保事業(井戸掘削、カレーズの修復)を始めました。

2002年1月に、「緑の大地計画」を発表。これまで継続してきた、医療活動、飲料水源確保に加え、農業事業を始めました。

2003年3月、干ばつからの農村復興を目指して灌漑水路建設に着手し、長期的な事業を展開しています。

水路が伸び農地が広がると多くの難民が帰還したため、地域共同体の要ともいふべき「モスク、マドラサ(伝統的な寺子屋式教育機関)」が必要とされ建設を始めました。地域住民から期待されています。



柳によって護岸された水路(柳枝工)



マドラサで体験入学を喜び子どもたち(2009年5月11日)

## 水利事業

2003年3月、水量の豊富なクナルル河水系を利用した灌漑水路建設計画がスタートしました。2007年4月、第一期13kmが完成し、2009年8月には最終地点であるガンベリ沙漠までの全長24.3kmが開通しました。この水路によって直接灌漑される農地は約2,500ヘクタール、およそ15万人の人々が恩恵を受けます。また、近隣の涸れた取水口の改修によって合計14,000ヘクタール農地が耕作できるようになりました。この用水路は日本の伝統工法である蛇籠工と柳枝工で造成され、水路沿いには約21万本の柳や桑などが植えられています。

＜自立定着村＞  
水路最終地点には250ヘクタールの農地と居住区が確保され、約1500人が住む自立定着村が拓かれます。ここには主に、水路事業に関わった人達が入植し、自活しながら長い年月を要する用水路保全の役を担うという構想です。

- 水利関係職員:約100人、作業員:約600人(2009年9月現在)

## 農業事業

「自給自足が可能な農村」の回復のため、2002年ダラエ・ヌール渓谷に試験農場(約8,000m<sup>2</sup>)を作りました。地元住民の協力を得て開設したこの農場では、土地に適した作物・技術を研究しました。2006年からはその成果であるサツマイモ、水稲、大豆を農家に普及する段階に入りました。

この試験農場での成果は、自立定着村で大々的に展開されています。

《水路13km地点のK貯水池》



造成中(2007年3月)



農地が回復した同地(2009年3月)



ダラエ・ヌールの試験農場で収穫したサツマイモ

### 中村 哲 なかむらてつ

ペシャワール会現地代表。PMS総院長。  
1946年福岡市生まれ。九州大学医学部卒業。国内の病院勤務を経て、1984年パキスタン北西辺境州の州都ペシャワールに赴任。その後、東部アフガニスタンへも活動を拡げ、ハンセン病や結核など貧困層に多い疾患の診療、農村復興のため水利事業に携わり現在に至る。



# 心が動いたら会員に

## ペシャワール会入会案内

### 現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員や支援者の会費・寄付金によって運営されているNGOです。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などを問わずどなたでも入会できます。

\* 会員・支援者の方には、現地活動等の報告記事を載せた会報を年4回お送りしております。



## 年会費

学生会員	1,000円より
一般会員	3,000円より
維持会員	10,000円より
団体会員	30,000円より

(会計年度は4月1日～翌年3月31日)

\* 会費以外の寄付も随時受け付けております

## 会費・寄付などの納入方法

郵便払込口座 01790-7-6559

加入者名 ペシャワール会

お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出しください。

※ご入会の際は通信欄に「入会」と明記して下さい。

会報の発送に年間数百万円以上かかっております。未使用切手・書き損じのハガキ等をお送りいただければ幸いです。

(\* 古切手は扱っておりません)